

図書館教育

図書館教育年間計画

年間を通して、継続的に子どもたちが本に興味を持つことができるように、月に1度の全職員によるブックトーク、学期に1度の全校児童によるビブリオバトル、全家庭で月に1度の母子家庭読書の日を行っています。また、学校司書による図書の展示も充実しています。

小規模校であることを活かしたこれらの取り組みは、一人一人の児童が本の面白さを感じ、読書に親しむことができるようになっていきます。

ブックトーク

毎月1回をブックトークの日として実施しています。ブックトークとは、テーマを決めていろいろなジャンルの本を、短い時間でつないで紹介するものであり、読み聞かせとはねらいが異なります。聞き手である児童に、その本を「読みたい」と興味を持たせるために行います。ブックトークは読み聞かせと比べ、短時間に何冊も本を目にすることができます。季節や学校の行事など親しみやすい内容を設定することで、子どもたちは「今回は、どの先生がブックトークをしてくれるのかな。」と、毎月のブックトークを楽しみにしています。1年間で、およそ60冊の本を子どもたちに紹介しています。

実施日時	計画内容	実施の主体
4月	ブックトーク	職員
4月	ビブリオバトル	全校児童
5月	ブックトーク	職員
6月	ブックトーク	職員
9月	ビブリオバトル	全校児童
10月	ブックトーク	職員
11月	ブックトーク	職員
12月	ブックトーク	職員
1月	ビブリオバトル	全校児童
2月	ブックトーク	職員
3月	ブックトーク	職員
毎月20日は母子家庭読書の日		

全職員が年に1回ブックトークを行っています。



学校司書もテーマに合った本を紹介します。



例えば、「動物」「スポーツ」「雨」「ミステリー」「お化け」「食べ物」「ふゆ」「衣服」「ゆめ」などそれぞれ教師がテーマにそった本を紹介し、子どもたちの本への関心を高めています。

学期に1度の ビブリオバトル

学期に1度は、全校児童が参加し、ビブリオバトルを行っています。ビブリオバトルとは、制限時間（たとえば2分間）内に、おススメの本1冊を紹介する紹介ゲームです。聴衆（児童や教師）は、紹介された本の中から、読んでみたいと思った本に1票を投票し、得票数の多かった本がチャンプ本になります。

年間に3回行うことで、子どもたちは聞き手を惹きつける工夫と、選ぶ本を厳選してくることができるようになってきます。子どもたちが手に取りたい本を図書室に揃え、効果的に紹介し合うことで、どの子も本が好きになっています。図書の時間を楽しみにし、隙間の時間ができると黙々と本を読む子どもたちの姿を目指し取り組んでいます。

学年を追うごとにみんなに興味を持ってもらうための工夫がたくさんできるようになっています。また、高学年になるとみんなの反応を見ながら読み進めています。これからも楽しみなビブリオバトルです。



母子家庭読書の日

家庭読書の充実に取り組むことで、児童のことばの力の育成と豊かな人生作りの基盤を養うことをねらい、毎月20日は家庭で読書を楽しむ日としています。

読んだ本は、三田市内の児童生徒全員が持つ「読書通帳」に記録し、100冊、300冊読むとバッジをもらいます。これも読書を続ける励みとなっています。

学校司書による読書活動

図書の時間の読み聞かせはもちろんのこと、季節やテーマに合わせて子どもたちの興味に合わせた本の展示を行っています。また、子どもたちにこんな本を読んだらどうかというアドバイスもしています。

子どもたちが読みたい気持ちを持つきっかけになればと願っています。